観光立国実践論

－カリブの観光に学ぶ －

＜中級＞

Teaching Tourism in the Caribbean

A Resource Manual for Teachers of Tourism at the Secondary Level

財団法人 国際観光サービスセンター
INTERNATIONAL TOURISM CENTER OF JAPAN

観光立国実践論

－カリブの観光に学ぶ－

＜中級＞

Teaching Tourism in the Caribbean

A Resource Manual for Teachers of Tourism at the Secondary Level

「観光立国実践論—カリブの観光に学ぶ—＜中級＞」について

本書は、カリブ観光機構（Caribbean Tourism Organization、以下「CTO」という）が、加盟している国及び地域の学校教育を受けている若者たちに焦点を当てて、彼らにカリブ地域における観光の重要性を認識させ、将来の観光分野における有為の人材を養成することを主たる目的として、日本の中学校レベルにあたる学生の教育に従事している先生達の教材として作成されたものである。

CTO の組織及び活動については、本書中に詳しく紹介されているので、ここでは 1989 年に設立された観光に関する国際機関で、正規メンバーはカリブ海に面した 32 の国及び地域からなり、本部はバルバドスに置かれていることのみ触れておく。

本書の編纂及びフランス語及びスペイン語への翻訳に関わる経費は、既に国際観光サービスセンターから刊行済みの小学校レベルにおける教員を対象とした教材の経費とともに CTO から UNDP の Japan Fund に対して助成の申請がなされ、その拠出が認められた。

2000 年 9 月に外務省の依頼で、CTO 本部を訪れて事務局長の Jean Holder 氏以下の幹部の方達とカリブの観光開発について意見交換をした際に、UNDP への助成を申請している事を知った。翌年 10 月に再度外務省の依頼で CTO 本部を訪れた際に、既に小学校レベル及び中学校・高校低学年レベルの教本が出来上がっていることを知り、特に頼んで入手した。

帰国後ざっと目を通してみた所、小学校レベル、中学校レベルとも内容が充実しており、日本において観光を学ぶ際に大いに参考になることが分かった。

そこで、早速日本語訳に取り掛かるとともに、CTO 本部に対してこれら 2 つの教材の翻訳・刊行の許可を無償で新井に対して与えて欲しい旨の要請を行い、事務局長 Jean Holder 氏から快諾を得ることができた。

小学校レベルの教材は量的にも少なかったこともあり、昨年 9 月に『カリブ観光教本＝小学校用＝』として国際観光サービスセンターから刊行されている。本書は内容的には観光・旅行を学ぶ者にとって必要な事項が平易かつ簡潔に紹介されており、観光の入門書として極めて優れたものである。

勢いに任せて、中学校レベルの教材の翻訳に取り掛かったが、内容がかなり高度で簡単にはいかず、結局 1 年経ってようやく完了することができた。

以前、個人的な勉強をかねて、イギリスの大学で観光を学ぶ者の教科書である Chris Cooper 他の方々の書かれた“TOURISM: Principle and Practice”の翻訳に取り掛かり、あまりの量の多さと内容の難しさに音を上げて、3 年経ってようやく抄訳で諦めたことがあるが、本書はそれに勝るとも劣らない内容がかなり噛み砕いて分かりやすく紹介されている。加えて、本書は実践面に応用されることを意識して作成されており、観光振興を実施する際にすぐに役に立つ事例が豊富に盛り込まれている。

現在推進されているビジット・ジャパン・キャンペーンの具体的な推進において、本書に盛り込まれている内容は大いに参考になるものと思われる。

このような事実を踏まえて、本書の表題を「観光立国実践論」とすることにした。

なお、CTO を訪れた際の説明では、中学校用の教材に続いて、高校レベルの教材の作成も企画しているということであったが、最近問い合わせたところでは、資金面の目処がつかず出来上がっていないということであった。もし、出来上がったらいかなる内容のものとなるのか楽しみである。

本書の翻訳は、第 1 章から第 3 章までは、国際観光サービスセンター主任研究員　国玉勝一が行い、第 4 章から第 8 章まではパシフィック・コンサルタント・インターナショナル嘱託　荒木美紀が行い、第 9 章の翻訳及び全体の翻訳の見直しは新井が行い、レイアウト、文体、用語の統一は国際観光サービスセンター主任研究員　森のぞみが行った。

しかし、本書の邦訳全体の責任は、新井が負うものである。

平成 15 年 11 月

（財）国際観光サービスセンター

理事（調査企画担当）新井　佼一

目　次

序文

第 1 章　観光の概要 1

Unit 1：カリブ地域における観光開発の歩み 1

Unit 2：観光関連用語・概念の定義 11

Unit 3：観光産業における８つの部門 20

Unit 4：カリブ観光における実態と統計数値 35

Unit 5：観光商品の種類 54

第 2 章　観光開発に影響を与える要素 66

Unit 1：観光産業の遵守すべき規準 67

Unit 2：社会環境の保全 74

Unit 3：インフラストラクターの新設と維持管理 85

Unit 4：投資誘致策／財政政策 89

Unit 5：人的資源開発 91

Unit 6：自然環境の保全 95

Unit 7：交通機関の整備 102

Unit 8：効果的なマーケティングと販売促進活動 105

第 3 章　顧客サービスとコミュニケーション 112

Unit 1：コミュニケーション 113

Unit 2：異文化コミュニケーション 117

Unit 3：カリブ式の良質なサービス訓練の開発 120

Unit 4：苦情処理 127

第 4 章　観光による経済効果 133

Unit 1：観光の経済効果 135

Unit 2：雇用の創出（直接・間接雇用―相互関係を通じて） 138

Unit 3：課税による歳入の確保 140

Unit 4：観光に経済的に関連する他のセクターの発展 143

Unit 5：外貨の漏出 146

Unit 6：Tourism Satellite Accounts 148

第 5 章　観光による社会文化への影響 152

Unit 1：カリブ地域の文化 153

Unit 2：文化の適応、受容及び同化 161

Unit 3：観光客受け入れ側コミュニティへの影響 164

Unit 4：観光の社会的・文化的な利益と負担 167

第 6 章　観光と自然環境 173

Unit 1：観光による環境への影響 176

Unit 2：持続可能な観光を支援する際の利害関係者の役割 184

Unit 3：観光における環境行動規制 191

第 7 章　職業診断 197

Unit 1：観光部門において働くために必要な心構えと専門的技能 198

Unit 2：観光部門における就業機会 202

Unit 3：訓練の機会 207

Unit 4：企業家の出現 210

第 8 章　観光支援サービス 216

Unit 1：観光省庁の役割 217

Unit 2：国家、地域、国際レベルの観光協会の役割 219

Unit 3：援助機関の役割 234

第 9 章　観光関連用語注解 243

第 1 章　　観光の概要

Unit 1:　カリブ地域における観光開発の歩み

目　的

Unit 1 終了時における目標習得能力

1. 開発当初から現在までのカリブ地域における観光開発の歩みをたどることができる。
2. カリブ諸国における観光開発に貢献したものが何かを明らかにすることができる。
3. なぜカリブ地域の全ての国々が主要な経済活動として観光に着目してきたのかを理解し、明らかにすることができる。

学習の基本概念

- 観光は有史以来存在しているが、カリブ地域に観光産業が生まれたのは 19 世紀末ごろのことである。
- カリブ地域における農業やその他の経済部門の衰退が、外貨獲得の主要な手段として、観光を発展させる要因となった。
- カリブ地域における観光開発は、個々の国によって異なるペースで行われてきた。

観光は人々がある場所から別の場所へと移動できることから発生した。それは旅行として捉えることもでき、いくつもの要因や動機に左右される。

旅行願望は有史以来存在しており、人々は徒歩で、あるいはその他の移動手段を用いて旅をした。

旅行する動機は以下のように様々であった。

- 交易
- 宗教
- 健康
- 教育
- 戦争
- 娯楽、保養のための旅行
- スポーツ

交易

国家間の交易を目的とした人々の移動は、古代の書物や遺物に書き残されている。歴史を紐解けば、フェニキア人、インド人、中国人、アフリカ人などが初期の交易商人だったこと、そして最も活発な交易地帯が地中海海域と紅海だったことがわかる。これらの商人たちは黄海からインド、アラビア、黒海沿岸へと旅をした。後に、西暦紀元初期には、ローマが交易の中心地となり、商人たちは西・中央ヨーロッパ、北アフリカ、中東地域へと旅をした。

中世、5 世紀から 15 世紀には、アラブ人が世界的な交易商人の地位を引き継いだ。15 世紀の終わりにかけて、ポルトガル、オランダ、スペイン、イギリスが隆盛を誇り始め、東方への航路を求めて外洋を旅した。この頃、スペインのクリストファー・コロンブスが西インド諸島を発見した。

後にアムステルダム、リスボン、ハンブルグ、ロンドンからカリブ海、極東への新たな通商航路沿いに、交易は発展した。

過去のどの段階においても、交易が造船やその他の輸送手段に革新をもたらしてきた。交易によって必然的に他の民族や土地に対する知識や興味が増し、交易以外の目的での旅行を生み出すことにもなった。

宗教

古くから様々な宗教の信者が、聖地巡礼のためならば身にかかる大きな危険を冒してでも旅に出かけた。古い時代からインド人がガンジス川へと巡礼の旅に出かけており、エジプト人、ユダヤ人、ギリシャ人もまた自分たちの聖地へと旅をしていた。

初期の巡礼の旅で最も知られているのは、キリスト教徒による聖地パレスチナとローマの殉教者の墓への巡礼、そしてイスラム教徒による、聖地であり預言者モハメッドの生まれ故郷でもあるメッカへの巡礼である。

キリスト教徒は 2 世紀にはすでにベツレヘムとエルサレムへ旅をしていた。中世の教会は巡礼に出ることは非常に重要なものと見なしていた。これらの巡礼者は聖遺物を捜し求め、自らの旅を贖罪の手段とみなしていた。

健康

1326 年にベルギーのルイージュ県にあるスパという町で鉱泉が見つかった。これが温泉付きの保養施設の始まりであり、温泉に含まれる鉄分、硫黄分、マグネシアなどのミネ